

第2回 関西・以西ブロック若手生産者交流会報告

- (1) 2024年7月18日・19日（木・金）、福岡県宗像市の宗像ユリックスにて、神内ファーム二十一株式会社すすき牧場の受入れ、若手生産者交流会実行委員会の運営により、第2回 関西・以西ブロック若手生産者交流会が開催されました。2日間の参加者は生消協会員産地で関西・以西ブロック所属の13産地38名、パルシステムグループ9名の合計47名の参加となりました。
- (2) はじめに、基調講演として、パルシステム連合会、渋澤温之代表理事専務理事より「-ともにいきる地域づくり-パルシステムの到達点とこれからの産直 次世代へ」をテーマに、産直と運動の歩み、パルシステム2030ビジョン、商品開発で実践するとともに生きる地域づくり等についてご講演をいただきました。その後の質疑では「全国の農産物、パルシステムが集荷する農産物のロス」「事業拡大の方向性」について「現時点では予備青果活用のみ集計しており、全体量や活用の量、残渣利用などについても数値化を検討する」、「ただの事業拡大ではなく、パルシステムに参加する層を増やすために、パートナーと共にビジョンの具体化が必要」とそれぞれお答えいただきました。
- (3) グループ交流では、交流ツール「えんたくん」を用いて、参加者間での自己紹介や「自組織での立ち位置・役割」「自身の5～10年後の目標」をテーマに意見交換と交流が深められました。
- (4) パネルディスカッションでは、肥後あゆみの会の澤村輝彦氏・光大氏、鳥越ネットワークの鳥越耕輔氏・原田憲太郎氏をパネリストに迎え、「世代を超えて、新たな担い手が描くこれからの農業」をテーマに会場参加者を交えながら行われました。前半は自己紹介と就農のきっかけ、生協との出会いについてお話がされ、就農後の心境の変化については会場参加者の悩みや質問なども交えてお話をいただき、「取り組みが地域に認められ空気が変わった。周囲の協力を得て組織化し地域を守っていききたい」、「有機農業の周知と理解、地域貢献と人材が循環できるが組織を継承したい」、「これから3-5年が正念場、この会のつながりで乗り越えていきたい」、「地域の担い手が集う組織として自信をもって農業をしていきたい」とお話しいただきました。
- (5) 2日目は、すすき牧場視察として、初めに薄一郎場長より組織概要と沿革、自給飼料の取り組みなどについて説明がされ、その後、宮崎啓太郎氏の説明により牛舎を回り、質疑を交えて説明がされ、生産行程などについて知見を深めました。なお、視察については豪雨により途中での切り上げとなりました。
- (6) まとめでは、細谷時葉消費者幹事よりおひとこといただき、今回の交流会を企画・運営に携わった実行委員会メンバー5名より、第3回若手生産者交流会の開催が宣言されました。
- (7) 最後に、昼食交流会として、すすき産直牛が振る舞われ、2日間の全プログラムが終了となりました。



グループ交流の様子



パネルディスカッションの様子



1 日目全体会会場での集合撮影の様子



2 日目視察の様子

以上